



誓いの言葉を述べる高橋鈴奈さん

「飯南町二十歳のつどい」を来島交流センターで開催しました。民法改正による成人年齢の引き下げに伴い、これまで開催してきた「成人式」を、今年度から「二十歳のつどい」と改称しましたが、対象者は令和3年度に20歳を迎えた人です。式典には38人が出席。来賓による祝辞、記念品受領の後、代表者が誓いの言葉を述べました。式典後の交流会では、中学校時代の恩師からのメッセージや、学生時代の思い出話披露、飯南町に関する〇×クイズが行われました。

8.15
月

ふるさとを想って
二十歳のつどい



久しぶりの再会に笑顔が溢れます

交流会終了後の会場では、友人や恩師との再会を喜び合う姿が見られました。出雲市内で保育士として勤務する奥野志穂さんは「コロナ禍で、開催していただき、感謝しています。出席したことで、成人としての自覚を持つ機会となりました。育ててくれた母や、支えてくださる人たちに感謝して、社会人として頑張っていきたいです」と話していました。

8.7
日

夏休みの思い出をつくらう
サマーフェスティバル



モルックは木の棒を投げ、数字の書かれた木のピンを倒すフィンランド発祥のスポーツ

交流センターとんぼら前のとんぼらパークで「サマーフェスティバル」が開催されました。この企画は、若者を中心に「頓原地域を元気に」を目的に活動する「とんぼら探険隊フェブ実行委員会」が主催。当日は、金魚すくい、射的といった夏祭りらしいものだけでなく、モルックやイモリ釣りなど珍しい遊びも出店されました。その他にもコンサートやミニ抽選会も行われ、集まった参加者は盛りだくさんの企画を思い思いに楽しんでいました。



多くの出店があり、賑やかなイベントになりました



「ダルマーズ」によるコンサートをBGMに(14ページに関連記事)

8.21
日

盛夏のサイクリング
やまなみ街道クライムライド

道の駅赤来高原を発着点に、やまなみ街道を駆け巡る自転車イベント「やまなみ街道クライムライド2022」が3年振りに開催されました。遠くは関東や九州地方など、県内外から約150人が参加。71キロメートル、140キロメートルのコースに分かれ、思い思いにコースを走り抜けていました。大会を運営したNPOサイクリストビュウの森脇理事長は「開催できて良かった。自転車飯南町を盛り上げていきたい」と話していました。



完走を目指して元気にスタート

9.3
土

「防災の日」にちなんで
親子で防災キャンプ

防災の日(9月1日)にあわせ、「親子で防災キャンプ」が赤名公民館で開催されました。参加者は、避難所で使用する可能性のあるダンボールベッドを組立てる体験や、中山間地域研究センターの東研究員による防災クイズを楽しみました。その後、赤名連坦地周辺に、危険箇所がないかを歩いて確認しました。参加者は「雨が降っていたこともあって、滑りやすいなどの危険箇所がありました」と話していました。



当日は、赤名小学校の児童など5人が参加

8.11
木

自ら収穫して味わう
トウモロコシの収穫を体験

上來島地区のトウモロコシ畑で、収穫体験が開催されました。町内外から訪れた多くの参加者は、畑に伸びる背の丈ほどもある、トウモロコシの収穫を楽しみました。雲南市から訪れた参加者は「コロナ禍でなかなか出かけられない中で、田舎ならではの夏らしい体験ができ、子どもも喜んでくれた」と話していました。このイベントは、小田真木地区の皆さんで構成される「小田真木の未来」みんなでやるう会が主催。



力をこめて大きなトウモロコシをもぎとります

8.14
日

みんなで体を動かそう
とんぼら一斉ラジオ体操

交流センターとんぼら前で、夏休み恒例の「とんぼら一斉ラジオ体操」が開催されました。朝6時半、頓原地区の住民を中心に約40人が集まり、輪を作って、ラジオ体操第一、第二で体を動かしました。主催者した頓原公民館の石川館長は「あいにくの空模様で、参加者が集まる心配しましたが、多くの参加があり、開催してよかった。ラジオ体操で元気に一日をスタートしてほしい」と話していました。



い〜ちゃんも参加して一緒に身体を動かしました